

2001 年度第 1 回オリエンテーリング競技規則勉強会

このたびは勉強会へお申し込みいただきありがとうございました。会場の都合で短い時間ではありますが、密度の濃い時間をすごしたいと思います。

1 . 主催：日本学生オリエンテーリング連盟 主管：技術委員会

2 . 日時：2001 年 9 月 8 日（土）14:45 受付開始 15:00 開始 17 時終了予定

14:45-15:00 受付

15:00-16:15 講習会

16:15-16:45 質疑応答と質問コーナー

16:45-17:00 片付け

3 . 場所：伊那市立図書館 視聴覚室

4 . 勉強会内容

- COMPETITION RULES FOR INTERNATIONAL ORIENTEERING FEDERATION (IOF) FOOT ORIENTEERING EVENTS (IOF 競技規則 2000) (+ JOA 新競技規則)

をもとにして、実際の大会での

- 間違った使い方
- 考慮されていない点

等を中心に、実践に役立つ点についても扱っていきます。

1. 国内の大会における IOF 競技規則と JOA 競技規則の適用範囲について

- 国際ルールである IOF 競技規則、国内のルールである JOA 競技規則は、各大会において、どのように運用すべきか？

<IOF 規則 2.1>

これらの規則は、付録を含めて、世界オリエンテーリング選手権（WOC）、オリエンテーリングワールドカップ（WC）、ジュニア世界オリエンテーリング選手権（JWOC）、世界マスターズオリエンテーリング選手権（WMOC）および IOF 世界ランキング大会（WRE）の W21 ならびに M21 エリートクラスを拘束していなければならない。条項の前に大会略号のないあらゆる規則は、これらのすべての大会に有効である。これらの大会の 1 つあるいはそれ以上に有効な規則は、条項の枠外にそれぞれの略号で示されている。そのような特別な規則は、矛盾するどのような一般的な規則よりも優先する。

<IOF 規則 2.2>

これらの規則は各国の規則の基礎として推奨される。

<JOA 新規則 2.1（旧規則 1.1 に対応）>

本規則は、国際オリエンテーリング連盟（以下 IOF という）の競技規則に基づき、フット・オリエンテーリング競技について定めるものである。

<JOA 新規則 2.2（旧規則 1.2 に対応）>

本規則は、日本オリエンテーリング協会（以下 JOA という）主催および公認大会に適用されるとともに、国内における競技規則の基本となるものである。

- JOA の競技規則は、IOF 規則に準拠して作成されている。一般的な条項の他、IOF の基準が国内において満足されないケース、IOF 規則に規定されていないケースについても規定されており、国内の大会においては、JOA 規則に則った運営がなされなければならない。なお、JOA 規則にない場合は、IOF 規則が適用される。
- インカレのように、独自の規則が策定されている大会は、独自規則が優先されるが、独自規則に規定されていない事項については、JOA 規則、それもない場合は IOF 規則が適用される。
- これらの規則を逸脱する（ローカルルール）場合、一般的には大会コントローラーの承認が必要である。

2. スタート関連

- スタートで表示する時計について

<IOF 規則 22.4>

スタートは、ウォームアップエリアの一角においてスタート時刻前のプレスタートとして運営してもよい。プレスタートがある場合、チームオフィシャルおよび競技者に対する競技時刻を示す時計が表示されねばならず、競技者の名前が呼ばれるか、あるいは表示されなければならない。プレスタート以降は、スタートする競技者および運営者に案内された報道関係者のみが立ち入りを許される。

<IOF 規則 22.5>

スタートでは、競技者に競技時刻を示す時計が表示されねばならない。プレスタートでない場合、競技者の名前が呼ばれるか、表示されねばならない。

- スタートでは、競技時刻（現在時刻、標準時に合わせる）を示す時計をおかなければならない。3 分進んだ時刻（スタート枠に入る時刻）を示すのは間違い。

- 地図の渡し方について

<IOF 規則 22.7>

競技者は、正しい地図を取る責任がある。競技者のスタート番号、名前あるいはコースが、競技者がスタートする前に見えるように、地図に示されねばならない。

- リレーにおいても、スタート前に地図が確認できる必要がある。

3. ゴール関連

□ ゴールレーンについて

<IOF 規則 23.2>

ゴールへの進入は、テープあるいはロープにより制限されなければならない。最後の 20m は直線でなければならない。

<IOF 規則 23.3>

ゴールラインは、少なくとも 3m の幅があり、進入方向に対して直角でなければならない。 ゴールラインの正確な位置は、近づく競技者にははっきりと見えるようでなければならない。

- ゴールレーンは計時線直前は 20m の直線。計時線は 3 m 以上の幅が必要。後者は、日本ではほとんど守られていない。

□ パンチングフィニッシュについて

<IOF 規則 23.5(JOA 新規則 22.1)>

ゴール時刻は、競技者の胸がゴールラインを横切ったとき、あるいはゴールラインでパンチしたときに測られなければならない。時刻は、秒に丸められる。時間は、時・分・秒あるいは分・秒のいずれかで示されなければならない。

- 電子パンチを用いた場合、パンチングフィニッシュが認められている。

□ 計時システムについて

<IOF 規則 23.6>

2 つの独立した計時システム、第 1 および第 2 が、競技を通じて連続的に使用されなければならない。計時システムは、同じクラスの競技者の時間を、相互のシステム間で 0.5 秒以内の精度で測らなければならない。

- 計時システムは、独立な 2 つ以上のシステムが必要である。

4. 成績、速報について

□ パンチチェックについて

<IOF 規則 20.7>

ミスパンチあるいはパンチが確認できない競技者は、ミスパンチあるいは確認できないことが競技者の責任でなく、競技者がコントロールを訪れたということが明確に立証される場合以外は、順位がつかない。この例外においては、例えばコントロールオフィシャル、カメラによる証拠、コントロール装置の記録のような他の証拠が、競技者がコントロールを訪れたことを証明するために用いることができる。それ以外の（システムが正常に作動する）場合は、そのような証拠は受け付けられない。

<IOF 規則 20.8>

視認できるパンチの記印システムが用いられる場合、少なくともパンチ記印の一部がそのコントロールの適切なボックスもしくは予備ボックスに入っていなければならない。1 つのミスは認められる；すなわち、正しいボックスの外側あるいはボックスを 1 つ飛ばしてパンチしても、全てのパンチが明瞭に特定できる場合。不正確なパンチで有利になろうと試みる競技者は失格としてもよい。

□ 成績について

<IOF 規則 24.2>

公式成績は、最終スタート者の許容されるゴール時刻後 4 時間以内に発行されなければならない。それらは、競技当日にチームマネージャおよび信任された報道代表者に手渡されなければならない。

<IOF 規則 24.3>

予選レース競技の決勝が予選レース当日に行われる場合、予選レースの成績は最終スタート者の許容されるゴール時刻後 30 分以内に発行されなければならない。

<IOF 規則 24.17(WMOC,WRE に適用)>

成績のコピーが大会後 15 日以内にインターネットで発表されなければならない。

- これらの規則では、迅速に公式成績をいずれかの方法で公表することを規定している。

<IOF 規則 24.7>

後続の走者に対してマス・スタートとなるリレーにおいては、チームメンバーの個々のタイムの合計が、マス・スタートとなったチームの順位を決める。後続の走者でマス・スタートとなったチームは、正規の方法で中継し、ゴールしたチームの後に位置づけられる。

- リレーで、ウム・スタートになっても、順位がつけられる。ただし、合計タイムが速くとも、正規に継走したチームのあとに順位づけられる。

5. 給水について

<IOF 規則 19.7>

優勝推定タイムが 30 分を越える場合、優勝者の推定速度で少なくとも 25 分毎に給水が可能でなければならない。

<JOA 新規則 17.8>

優勝設定時刻が 45 分を超えるクラスがある場合は、給水所を設ける。状況により必要な場合（酷暑時など）も同様である。給水所には、飲料水を用意していなければならない。

- JOA 旧規則では 60 分を超えるクラスであったが、より短く改正される。

6. コース設定について

□ コース設定の原則

<IOF 規則 16.2>

コースの水準は、国際的なオリエンテーリング大会にふさわしいものでなければならない。競技者の方向決定（ナビゲーション）技術、集中力および走力が試されなければならない。すべてのコースは種々のオリエンテーリング技術を求めるものでなければならない。ショートディスタンスのコースは、とくにコースを通じての高度の集中力、詳細な地図読みおよび頻繁な意志決定を要求しなければならない。クラシックディスタンスのコースは、ルート選択を要求しなければならない。

- 詳しくは、付録 2「コース設定の原則」を参照。

□ コントロールの位置について

<IOF 規則 19.4a>

コントロールは、お互いに 30m 以内に設置してはならない。

<コース設定の原則 3.5.5 コントロールの近接>

あまりに近接して置かれた異なるコースのコントロールは、コントロール位置に向かって正しく方向決定しているランナーを迷わすことになる。規則 19.4a に従って、コントロールは、お互いに 30m 以内に設置してはならない。さらに、地上および地図上でコントロール特徴物が明らかに異なる場合にのみ、コントロールは 60m より近く置いてよい。

- コントロールは、同じ特徴物に設置する場合は 60m 地図・現地ともに明確な区別がつく特徴物の場合は 30m より近くに近接コントロールを設置してはならない。

7. 裁定委員、コントローラについて

<IOF 規則 29.2>

IOF 評議会は、どの大会に対して陪審を任命しなければならないかを定める。IOF が陪審を任命しない場合には、運営者の連盟が陪審を任命しなければならない。

<IOF 規則 31.1>

これらの規則により拘束される全ての大会は、IOF コントローラによってコントロールされなければならない。IOF コントローラは、運営者の任命の 3 ヶ月以内に任命されなければならない。

<IOF 規則 31.4>

運営者の連盟は、必ずコントローラを任命しなければならない。このコントローラは、IOF により任命される IOF コントローラを補助しなければならない。IOF がその大会に IOF コントローラを任命しない場合、連盟により任命されたコントローラが IOF コントローラとなる。連盟により任命されたコントローラは、同じ連盟から出す必要はない。

- 裁定委員、大会コントローラは、大会の質、公平性の維持のために、すべての大会において任命すべきである。

8. 競技者として知っておくべき事項

<IOF 規則 20.5>

競技者は、各コントロールで提供される記印器具を用いて、自分のコントロールカードにパンチする責任を負わなければならない。たとえ、いくつかのコントロールで運営者によってパンチされとしても、競技者は正確なパンチをする責任を有する。

- コントロールカードに正しく記印するのは競技者の責任である。コントロールカードには、電子コントロールカード(e-card, SI-card)も含まれる。

<IOF 規則 26.3>

薬物の使用（ドーピング）は禁止されている。すべての IOF 大会には IOF Anti-Doping Rules（IOF 薬物禁止規則）が適用され、IOF 評議会は実施される薬物管理方法を要求できる。

- オリエンテーリングもドーピング行為は禁止事項である。栄養ドリンクなどには禁止薬物が入っている場合が多いので、これらの飲食は注意すべきである。

9. JOA 規則独自の規定について

- 地上における表示については、マークルートはオレンジと白、立入禁止区域の外周は青と黄により表示

10. JOA 新規則について(H 1 4 . 4 . 1 施行)

- 女性の男性クラスへの参加が可能
- コース距離の測定方法が直線距離に変更
- スタート順抽選において、シード枠の設定が可能
- 要項記載事項にコントロールのパンチ方法が追加
- 競技形態の規程の再規定により、ポイント競技が復活